

第2章 まちづくりの主要課題

2-1 まちを取り巻く社会経済情勢の変化

我が国は、少子化・高齢化の進展、景気の低迷、行財政の硬直化など不安定な社会経済情勢の中にあり、また、地球環境問題の深刻化や大規模災害の頻発などの困難にも直面しています。

本市においても、つばき回廊商業棟の解体や舞鶴若狭自動車道小浜 IC の開通など大きな変化が生じており、これからのまちづくりを考える上で踏まえるべき社会情勢の変化を整理します。

①人口減少社会の到来

我が国の人口は、2004年をピークに減少に転じており、地域活力の低下や税収の減少などが問題となっています。特に農山漁村地域における人口減少が顕著で、また、まちの中心部から郊外への人口流出などに伴うまちなかの空洞化も問題となっています。今後も予想される人口減少社会に対応したまちづくりの取組みが求められています。

②少子化・高齢化の進行

我が国は、世界に類を見ない早さで少子化・高齢化が進行しており、車をもたない・運転できない高齢者や買い物難民^(※)の増加など、生活利便性の低下が指摘されています。また、少子化の進行は、次代の産業やまちづくりを担う人材の不足にもつながります。誰もが、いつまでも安心して暮らすことのできる・働くことのできるまちづくりの取組みが求められています。

③都市経営の効率化への要請

高齢化の進展などに伴い社会総コストが増加する一方、人口減少や景気低迷などにより自治体の税収は減少しており、行財政が硬直化しています。また、高度経済成長期に大量に整備された社会資本^(※)が更新時期を迎えています。市民の生命や財産の安全を確保しながらまちの発展を続けていくために、これまで以上に効率的なまちづくりの取組みが求められています。

④地球環境問題への対応

地球温暖化^(※)などの環境問題は、世界規模の重要課題であると同時に、私たちの暮らしに密接に関わる問題でもあります。徒歩や自転車・公共交通機関の利用促進、国土の保全と持続可能な農林漁業の展開、リサイクルや再生可能エネルギー^(※)利用の推進など、環境に負荷をかけないまちづくりへの取組みが求められています。

⑤自然災害への対応

地球温暖化^(※)に起因するとも言われる自然災害が地球規模で頻発し、その被害も甚大化する傾向にあります。特に東日本大震災の発生を受けて、原子力も含めた大規模災害に対する備えへの必要性が高まっています。災害を未然に防止する取組みとともに、災害発生時において被害を軽減する取組みが求められています。

⑥価値観の多様化と都市間競争の激化

成熟社会^(※)を迎えた我が国では、国民の価値観が物質的な豊かさから質的・心の豊かさへと変化し、地域固有の資源や本物を楽しむことへのニーズが高まっており、また、交通網の整備や余暇時間の増大などにより、都市間の競争が激しくなっています。地域にしかない資源を最大限に活用し、多様なニーズに対応できるまちづくりの取組みが求められています。

2-2 まちづくりの主要課題

本市の現況特性および社会情勢の変化などを踏まえ、本市における今後のまちづくりを進めていく上での主要課題を整理します。

① 小浜の美しい自然や固有の歴史・伝統・文化を未来に継承することが必要

若狭湾国定公園に指定される美しい海岸線や背後の山並み、小浜西組重要伝統的建造物群保存地区^(※)などの歴史的町並み、遠敷や松永地区をはじめ市域に分布する社寺建造物・歴史史料・古墳などの文化財群、放生祭や雲浜獅子などの伝統文化、若狭漆器や若狭塗箸などの伝統工芸産業、全国に先駆けた食のまちづくりなどは、本市を特徴づける重要な地域資源です。

これらをより良い姿で未来に継承していくとともに、地域資源の周囲も含めた一体的な雰囲気づくりを進めていくことが重要です。

求められる主な対応策

- 農地・里山・山林の適正な管理と後継者の育成
- 無秩序な開発の抑制
- 文化財の適正な維持管理
- 伝統行事や伝統工芸産業の伝承
- コミュニティ^(※)の育成と地域・教育等との連携
- 歴史的町並みの保存・修復
- 景観に配慮した建築物等の誘導、公共空間の修景
- 視点場^(※)の整備

② 小浜にしかない多様な地域資源を活用したまちづくりが必要

本市は、自然・歴史・伝統・文化・人・食など固有の地域資源を豊富に有しており、観光面においても、若狭地域の中心都市として重要な役割を担っています。

わがまちに対する市民の誇りや愛着を育むとともに、まちの活力や賑いの創出、新たな地域産業の創出、多様な地域との交流や連携の促進などを図るためには、地域資源をまちづくりに積極的に活用していくことが重要です。

求められる主な対応策

- 既存の地域資源の付加価値の向上
- 新たな資源の創出・掘り起こし
- 多様な手法を用いた情報発信
- 6次産業化^(※)など地域資源を活かした産業振興
- 市街地・田園・山間・海岸における核となる拠点施設の整備・充実
- 地域資源間の連携と回遊性の創出

③ 持続可能で住み続けられるまちづくりと地域コミュニティの維持が必要

人口減少、環境問題の深刻化、行財政の硬直化など厳しい社会情勢にある中で、「選択と集中^(※)」の考えに基づいた土地利用の誘導や道路・公園・下水道などの社会資本^(※)の整備および適切な維持管理を図るなど、環境負荷が小さく持続できるまちをめざすことが不可欠となっています。

また、少子化・高齢化の進展や自然災害の多発などの状況の中で、住み続けられるまちを形成するためには、居住環境の整備、生活利便性や移動性の向上、大規模災害も含めた防災の強化、企業誘致と雇用の場の創出、子育てや教育環境の充実などさまざまな問題に対して、市民や地域と行政が一緒に取り組んでいくことが必要です。

求められる主な対応策

- コンパクトシティ^(※)・低炭素社会^(※)の形成、中心市街地活性化、既存ストック^(※)の有効活用
- 既存の社会資本^(※)の長寿命化、必要な社会資本の整備
- 歩いて暮らせる環境づくり、公共交通網の充実
- 高齢者にやさしいまちづくり
- 空き家や空き地の有効活用
- 農山漁村の特徴を活かした定住の促進
- 人口流出の抑制、UJIターン^(※)の推進、雇用の場の創出
- 活力や賑いの創出
- 環境にやさしいまちづくり
- 総合的な防災対策の推進（防災・減災対策、円滑な避難誘導、原子力防災、情報発信、地域防災力の向上等）

④ 舞鶴若狭自動車道の整備効果をまちの活性化に最大限に活かすことが必要

舞鶴若狭自動車道の整備により関西圏・中京圏・北陸圏などからのアクセスが飛躍的に高まることから、広域的な観光や交流の促進など、まちの活性化につなげていくことが重要です。

本市は自然・歴史・伝統・文化・食などの地域資源を豊富に有しており、何度も訪れたいと思える魅力づくりを進めるとともに、来訪者の回遊性や滞在性を高めることが重要です。

中でも、公共公益や商業などの都市機能も含めて地域資源が特に集積する中心市街地は、広域的な玄関口である小浜 IC から近く、活力や賑い・交流の創出を先導する地域として、まちの魅力を高める取組みをハード・ソフトの両面から行っていくことが重要です。

求められる主な対応策

- 関西圏・中京圏・北陸圏等との広域的な交通ネットワークの形成
- 観光・交流人口の増加
- 全市的な交通ネットワークの形成（道路・バス・自転車等）、公共サインの整備
- 市街地・田園・山間・海岸における核となる拠点施設の整備・充実
- 地域資源間の連携と回遊性の創出
- 玄関口（JR 小浜駅・小浜 IC 等）にふさわしい景観整備、情報発信機能の充実
- 歩いて楽しめる環境づくり、回遊の仕掛けづくり、中心市街地の活性化
- 宿泊や飲食機能の充実
- 多様な手法を用いた情報発信
- 地域ぐるみによるもてなし

⑤ 市民とともにまちづくりを進めることが必要

将来にわたり発展できる持続可能なまちをめざすとともに、地域固有の課題への対応と地域活力の向上を図るためには、わがまちに対する市民の誇りや愛着を育み、まちづくりを担う人材を育てながら、市民など多様な主体が積極的にまちづくりに参画することができる環境を整えることが重要です。

また、めざすべき都市像の実現を図るためには、行政がリーダーシップを発揮するとともに、関係部局と市民が連携して総合的・戦略的にまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

求められる主な対応策

- めざすべき都市像やまちづくり方針の共有化
- まちづくり情報の発信・市民意識の高揚
- 人材の育成、学校教育・社会教育・地域との連携
- まちづくり活動の支援、活動拠点の充実
- 地域独自のまちづくり計画の策定やルールづくり
- 民間活力の導入
- 協働による地域運営
- まちづくりへの参画機会の充実
- 庁内の横断的な組織体制づくり、関係機関や近隣市町との連携

